

け合ったものでした。定年を前に辞められたのはお寺のことなど色々おありになつてのことと思いますが、今後は往復5時間の通勤（痛勤）時間から開放されゆっくと自らのお仕事に専念されることをお祈りする次第です。

## 小笠原先生との思い出

林 明 人

小笠原先生は、私が非常勤講師をさせていただいていた時に外国語部にいらっしゃるのは知っていましたが、実際お話をさせていただいたのは私が外国語部に専任講師として採用されてからでした。いつも笑顔を絶やさずおおらかに話される表情が印象的でした。これはもちろん先生生来のものということもあるでしょうが、そればかりかその体型も大いに関係しているのではと失礼ながら拝察（この言葉は先生がよく使われた）したものでした。

何度か先生の研究室に伺ったことがありましたが、一度カメラを持ってお邪魔したことがありました。というのは先生はとてもフォトジェニックで私はかねてから写欲をそそられていました。つまり、まん丸の顔の中に大きな目、そして太い眉毛、そして体型といい、私にはまるで優しい達磨さんといった風で、私の中ではかなり理想に近いお坊さんのイメージでした。出来上がった写真をお見せすると喜んで受け取っていただきました。先生はまだお持ちだと思いますが、私としては在職中のよい記念になればと撮らせていただいたのでした。

先生は大学の近くにもお住まいをお持ちでしたが、基本的には松本から中央線を使って通勤していらっしゃいました。私自身時々遅い時間になり出前を取ることもあり、その時は先生の研究室の電灯がついていれば、今夜は近くのお住まいに帰られるのだと勝手に判断し、一緒に出前を頼みませんかとお誘いし

たものでした。普段あまりお話しする機会がなかっただけに、いろいろ外国語部のことや個人的なことをお聞きできて大変有意義でした。色々お話ししながら私が先生に対して感じたことは、先生は先ず聞き上手だということです。先生より若い私や他の同僚が言うことも、フン、フンと頷きながらじっくりとお聞きになって、それからゆっくりとご自身の意見を言われるのが常でした。また色々伺った時に一番感じたことは、先生は物事を真直ぐに捉え、間違っただけに対しては断固許さないといったところでした。私など色々な状況を考えひるんでしまうことがよくあるのですが、小笠原先生のこの姿勢を見習わなければと痛感したものでした。定年前にお辞めになったわけですが、伺ったところ今後もお忙しそうで、かえって先生にはその方がお似合いかなとも思いました。隠居して枯れた達磨では、先生のイメージから程遠いものがあります。ご自愛されいつまでもはつらつとしていてください。

## 河内先生と私

松 本 丁 俊

河内先生と私は、不思議に幾つかの共通点があります。まず第一に、今こそ外国語部にありますが、私が外国語部に講師として採用される前は、助手でした、河内先生も同じく助手から講師として迎えられました。ですので河内先生と私は同窓の感じであります。助手と言えば大学のteaching assistantと違い、助教または助理でもない、もっぱら自分の勉強が仕事です。外国では講師の下に副講師assistant lecturerがいますけれど、またそれとも違うものであります。そして第二に、河内先生と私は年も同じ年で、定年を同じ年に迎えられると思っていましたが、先を越されたような気がします。まだまだお元気なのに家庭の